

WB実修所への参加にあたって（カブスカウト課程）

青森県連盟指導者養成委員会

ウッドバッジ実修所は隊指導者訓練の上級訓練として位置づけられ、ウッドバッジ研修所を修了し最低1年間のプログラム展開を経験した隊指導者を対象とし、「プログラム推進能力の向上」に特化した訓練が実施されます。

また、ウッドバッジ実修所は

第1教程：課題研究～部門別に設定された課題に取り組む

第2教程：基本訓練～部門別の集合訓練・3泊4日の野営

第3教程：実務訓練～自隊で取り組んだ結果を報告する

により構成されますが、第2教程では、スカウティングの本質の理解を高めるために高度の班野営を体験することから、第2教程へ進むためにはスキルトレーニングを修了することが必須となっています。

カブスカウト隊の隊長としてのプログラム推進能力向上を目的とするこの訓練は、カブスカウトの訓育に責任を持つ隊長の皆様には、本来あるべき姿のスカウティングについて理解を深め、自隊のスカウトに良質のプログラムを提供していくために、是非参加していただきたいものです。

また、すべての教程やスキルトレーニング等においてトレーナーが直接支援しますので、まずは団委員長へ参加の意思表示をしてください。

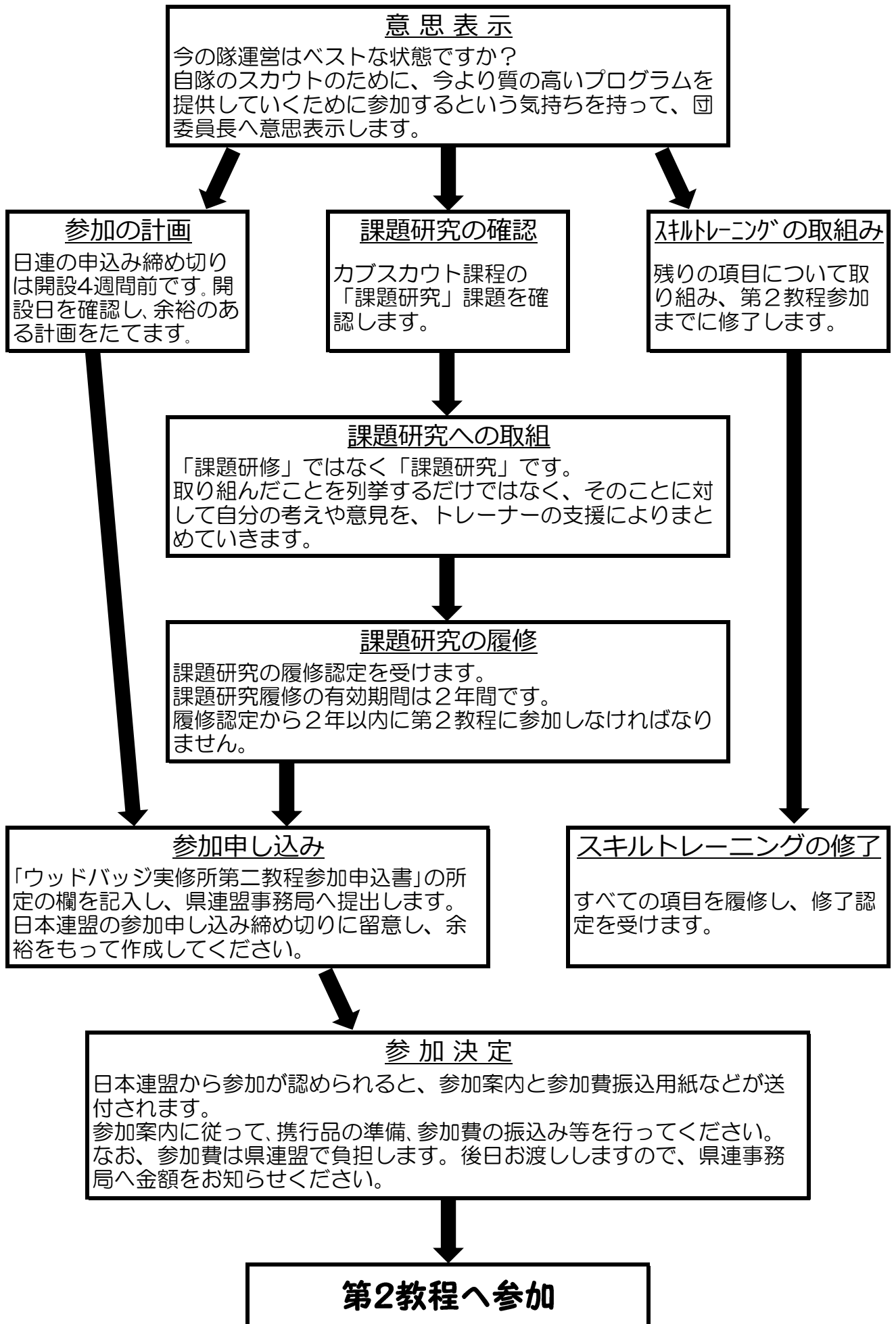
団委員長へのお願い

課題研究やスキルトレーニングの履修にはある程度の日数を要します。

またすべてトレーナーの支援により進めていきますので、参加の意思を確認した後、できるだけ早い時期にトレーナーまたはコミッショナーへご連絡ください。

第3教程の取り組みについては第2教程の中で説明されるので、ここでは、第1教程・第2教程について説明します。

まず、第2教程へと至る流れについて説明します。



次に、課題研究への取組について説明します。

第2教程は、自隊の課題、問題点の改善や解決を図り、自隊の隊運営、特にプログラムプロセスに反映させることに意義があり、自身が所属している部門の実修所へ参加することを前提としています。

また、第2教程で効率の良い学習をおこなうため、以下により事前に課題研究に取り組んでいただきます。

課題研究の履修は、トレーナーが認定します。

課題1 ① 自隊における保護者のニーズを調査し、集約してください。
② 自隊のスカウトの憧れや興味を調査し、集約してください。
③ 地域社会におけるカブスカウト隊に対する期待を調査し、集約してください。

(1) 課題1では、様々なニーズをプログラム活動へ反映させるため、まずニーズの集約をおこないます。

(2) ①は保護者のニーズの集約です。

カブスカウト年代にあっては、「子どもにこんなふうに育てて欲しい」といった保護者の願いが出てきますが、抽象的ではなく、できるだけ具体的に表現にします。

(3) ②はスカウトのニーズの集約です。

カブスカウト年代になると自分のニーズが具体的に出てくるので、よく耳を傾けることによりニーズをとらえることができます。

(4) ③は地域社会のニーズの集約です。

団を取り巻く地域社会が、カブスカウト隊にどんなことを望んでいるのかを地域の方々から聞き取ります。抽象的ではなく、「〇〇行事の〇〇に対する奉仕活動」というように、できるだけ具体的に表現します。

(5) 保護者・スカウト・地域社会に3つのジャンルに分け、箇条書きで記述してください。ただし、カブスカウト年代の特性を考慮し、達成可能な内容としてください。

課題2 隊集会を行うためのプログラムプロセスを図示し、留意点を記述してください。

(1) プログラムプロセスとは、プログラムの立案からプログラムの実施、プログラムの評価反省までのプログラムに関わる一連の流れや人的管理を含むものです。

課題2では、隊集会を行うために、どのようにプログラムプロセスを活用するとよいのかを考えます。

(2) カブスカウトのプログラムプロセスは、

- ① プログラム会議（月間テーマに基づくヒント・アイディア出し）
- ② デンリーダー集会（デンリーダー指導と組集会・隊集会計画）
- ③ デンコーチ集会（デンコーチとの打ち合わせ・指導・励まし）
- ④ 組長集会（組長のリーダーシップ育成・励まし）
- ⑤ 組集会（小グループによる楽しい活動）
- ⑥ 隊集会（組活動発表）

の流れにより実施されますが、スカウトをワクワク、ドキドキさせる活動を提供するために、これらの場面ごとにどのような点に注意・留意すればよいかについて考えていきます。

各会議・集会を実施する場合において、テーマを膨らませるための会議や団内のプログラム委員会などを活用する必要があるかもしれません。

(3) ウッドバッジ研修所の資料を再読、また隊長ハンドブックを熟読し、次の表を参考に、プロセスごとに記述してください。

	留 意 点
プログラム会議	
<hr/>	
隊 集 会	

課題3 ある月の自隊のプログラムプロセスの実情を評価してください。問題があれば改善案とその理由を示してください。（プログラムプロセスには、プログラム会議・デンリーダー集会・デンコーチ集会・組長集会・組集会（1～2回）・隊集会が含まれる。）

(1) 課題3では、課題2でのプログラムプロセス（あるべき姿）と自隊がおこなっているプログラムプロセス（現状）とを比較し、自隊での問題点、課題を洗い出します。

(2) それぞれの会議や集会が自隊で行われているのか、いないのか、その問題点は何なのか、改善すべき点は何かなどについて考えます。またそのことによってスカウトにどのよ

うな効果が期待されるのかということも併せて考えます。

なお、行われていないプロセスの過程については、行うための改善策を考えてください。

(3) 次の表を参考に、プロセスごとに一覧表を作成してください。

○月隊集会	現 状	問 題 点	改 善 策	得られる教育的効果
プログラム会議				
隊 集 会				

(4) 当該隊集会実施計画書を添付してください。

課題4 ① 団会議、団委員会の機能と役割を記述してください。

② 課題3の隊集会を実施するために、団委員会やその他からどのような支援が必要か、どのように協働するか等について具体的に記述してください。

(1) 課題4では、スカウトにより良い活動を提供するために、自分は、団からどのように、またはどのような支援を受けることができるのかを具体的に考えます。そのために、団会議、団委員会の機能と役割を理解します。

(2) ①は、団会議と団委員会の機能と役割をそれぞれ列挙してください。機能と役割については、「団の運営と団委員会」で詳しく説明しています。

(3) ②は、課題3の隊集会を実施するために必要と思われる支援を項目立てし、誰から支援を受けるのかを項目ごとに記載してください。

ここでの「誰」は、団関係者のみならず、県連や地区、また地域社会や個人・団体など、あなたや団を取り巻く環境を思い起こし、幅広い視野により考えてください。

課題5 カブスカウト隊の活動目標や進歩のあり方について、自隊の年間計画をふりかえり、その改善点を考えてください。

(1) 年間計画では、隊で修得すべき課目、課程で修得すべき課目を明確にすることが大切です。修得課目は年度の前半で完修できるように、年間プログラムに反映させなくてはなりません。

課題5では、自隊の年間計画を評価し、課目とプログラムとの整合性やカブ隊の活動

目標等のバランスのよい配置がなされているかどうかを確認します。

バランスが良くない箇所をチェックし、これを改善していくために、あなたはどのように取り組んでいくかを自由に記述してください。

(2) 自隊の年間計画を添付してください。

課題6 プログラム作成において、自身が解決したい問題について列挙してください。

(1) 課題6では、活動プログラムを作成する際において、自分自身に不足していることやもっと知りたいことなどを、知識・技能・心構えに分け、第2教程におけるあなたのニーズを明確にします。

(2) これらのニーズを

知識…… ○○のために○○を理解したい。

技能…… ○○のために○○を身に付けたい。

心構え… ○○のために○○を知りたい。

といった書き方で、箇条書きで記述してください。

「課題研究」の提出方法

- A4判の用紙に横書きで課題毎に記述し、左綴じとしてください。
- 「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」に必要な事項を記載し、表紙として下さい。
- 「ウッドバッジ実修所第一教程（課題研究）」には、課題ごとに指導をして下さったトレーナーの役務とお名前、指導・助言の内容を記入しますが、書いていただいても、自分で書いてもどちらでもかまいませんので、担当トレーナーにご相談ください。
- 課題研究の認定はトレーナーです。認定トレーナーの欄に署名をいただくとともに、課題研究と一緒に必ず指導者手帳を提出してください。
- 第2教程の参加申込にあたっては「ウッドバッジ実修所第二教程参加申込書」をその上に付けてください。第2教程の参加申込時には指導者手帳は提出する必要はありません。

各書類の様式は、日本連盟HPの「加盟員情報」→「ダウンロード」→「指導者訓練」のページから最新のものをダウンロードしてください。